

2025 年度「マレーシア 短期派遣プログラム報告書」

応用生物科学部・農芸化学科・2 年・鎌田知花

1. 当初の目的

私が今回参加した目的は主に 2 つあった。1 つ目は、光分解やバイオチャーについて理解することである。これらの単語自体は耳にしたことがあり、環境に良いという漠然としたことは知っていた。しかし、具体的な仕組みや活用方法は知らなかったの
で学んでみたいと考えていた。2 つ目は、英語力を高めることである。海外に行くことは日本にいるよりも英語で会話する機会は勿論増えるだろう。しかし、自分自身で計画した旅行ではなく、本プログラムに参加することは、現地の方々と関わる機会が圧倒的に多く、英語を練習する機会も圧倒的に多いため、自分自身の成長に繋がりが今しかできない経験だと考えたためである。また、海外に行き異文化に触れることは私自身に新たな視点や価値観をもたらしてくれるだろうと考えた。

2. 目的達成のために現地で活動した内容

本プログラムの期間は約 2 週間と非常に短く、現地の方々と交流できる時間も非常に限られているため、休憩を選択できるような場面でも、積極的にプログラムに参加するようにした。また、初めて見るために少し抵抗があるような食べ物でも思い切って挑戦するなど、その場でしか体験できないことを大切にするよう心掛けた。

主な目的 1 つ目の、「光分解やバイオチャーについて理解する」に対してである。日常会話では使わない化学単語が多く理解に苦労した。その中でも、最大限の知識を得るために、分からない単語は即座に調べたり、理解できなかった仕組みは一日のプログラム終了後の自分で調べたりした。

2 つ目の、「英語力を高めること」に対してである。自分自身の英語力に自信はなかったが、挑戦しないと成長もできないと考え、現地の学生の名前をすぐに覚え、積極的に話しかけに行くようにした。UPM の学生は、私の拙い英語でも理解しようと一生懸命聞いて下さり、会話がたくさんできたのはとてもありがたいことであった。また、寮で自分から声をかけたことで仲良くなった学生は、頻繁にローカルなフルーツやお菓子に挑戦させてくれ、とても良い経験であった。

3. 目標達成度の自己評価

目的 1 つ目に対する評価は B とする。前述でも述べたように、化学単語の理解に苦労したからだ。どのようなことを学ぶかの概要は、事前に分かっていたため、そこに関連してきそうな化学単語や理屈は出国前から、勉強しておくべきだったと反省する。ただ、初めて知る仕組みや取り組みについて学べ、どの講義も面白いと感じられたのは良かったと思う。

目的 2 つ目に対する評価は A とする。実は私は、昨年の大学で主催されていた短期派遣プログラムにも参加した。その時は、英語が伝わらないことや失敗を恐れていたため、積極性に欠け、日本人が複数人いる場でないと現地の方とコミュニケーション

をとらないという場面が多かったと振り返る。しかし、本プログラムでは、自ら話しかけに行き、UPM の学生複数人と私や、一対一でコミュニケーションをとる機会を多く取れたと手ごたえを感じるためである。分からない単語があったときにすぐに調べるのではなく、単語の意味を聞き返したり、自分の知っている単語で伝えたりすると、思いのほか伝わる事が多く少し嬉しかった。もちろん、私の英語力が乏しいためにコミュニケーションがとれずに悔しい経験の方がたくさんした。よりスムーズに会話するためには今後も英語の勉強や実践練習が欠かせないと痛感した。

世界の多様な文化や伝統、食事に触れる良い経験となったと共に、自分に足りていない点に気づかせてもらえた渡航であった。

4. 今後の取り組み

世界には様々な環境問題があり、1つの課題に対しても多様なアプローチの仕方があることが分かった。私は、将来どのような職に就きたいか明確な目標はないが、本プログラムに参加したことは、選択肢や興味の幅を広げられた良い機会となった。そのため、学科の授業や3年次から始まる研究室活動等を通じて様々な知識を得ていきたい。また、海外の方々と働きたいと漠然と思っていたものが、UPM の教授や学生の方々も日本人にはないようなユニークな考え方に触れて明確なものに変わった。そのため、英語力を落とさないように英語の勉強も欠かさずに行うと共に、沢山の UPM の学生と連絡先を交換させて頂いたのでコミュニケーションをとり続けていこうと思う。

5. その他

(ア)持っていって良かったもの

- ・サンダル→シャワーは部屋の外にあり、共有なのでサンダルがあった方が浴びやすい
- ・ハンガーなどをかけられる紐→部屋の外には洗濯物用のワイヤーがあるが、雨が降ることも多かったので、部屋内でも干せるとよい
- ・延長コード→コンセントが机の裏にあり、充電しにくい。

(イ)用意したがいらなかったもの

- ・小型電気ポット→寮に備え付けられているウォーターサーバーからはお湯も出るため

(ウ)現地で使用したお小遣いの金額

現金約 3000 円（お土産＋選択代等）、カード約 5000 円（お土産代）

※ほとんどのスーパーでカードが使える。一方、学内の売店やランドリー、自動販売機では現金（特に小さいお金）のみしか使えないので、1RM を多めに用意するとよいと思う。

6. 次年度以降の参加者へ

(ア)事前に準備した方がよいこと

- ・UPM の学生への日本のお土産→日本に興味がある学生が多く、日本のものは非

常に喜ばれるため。また、マレーシアの有名なものを沢山プレゼントして頂いた
ので、日本のものでお礼できると、とても話が弾んだため。

(イ)勉強しておくべきこと

- ・化学単語→初見で意味を会話の中から推測することは難しい
- ・基本的なマレー語→挨拶程度の日本語を知っている現地の方が多かったため。



